

蚊媒介感染症に関する特定感染症予防指針の概要

第1 平常時の予防対策

国、都道府県等: 平常時及び国内感染症例発生時の手引き(国)及び具体的な行動計画(都道府県等)の整備。

都道府県等: 大規模公園など注意を要する地点における継続的な蚊の密度調査、幼虫蚊の発生源対策、成虫蚊の駆除、長時間滞在する者への注意喚起等の実施。

第2 発生動向の調査の強化

国: 検査法の整備、海外における蚊媒介感染症の発生動向の把握。

国、都道府県等: 患者検体の確保、病原体の遺伝子情報の解析等。

第3 国内感染のまん延防止対策

都道府県等: 積極的疫学調査の実施、推定感染地の特定、市町村への蚊の駆除の指示等。

市町村: 都道府県の指示の下、推定感染地の蚊の駆除等の実施。

第4 医療の提供

国: 診療の手引きの提供、医療関係者間の相談・協力体制の構築。

国、都道府県等: 医療関係者への情報提供及び普及啓発。

第5 研究開発の推進

国:

- 蚊媒介感染症の病態解明、ワクチンや迅速診断法の開発、効果的な蚊の駆除方法の検討、媒介蚊の分布調査など、蚊媒介感染症対策に資する研究の推進。
- 研究機関間の連携体制の整備。

第6 人材の養成

都道府県等、市町村: 蚊媒介感染症や媒介蚊に関する知識・技術を有する職員の養成。

国: 都道府県等及び市町村における研修の中核を担う人材の養成。

第7 国際的な連携

国:

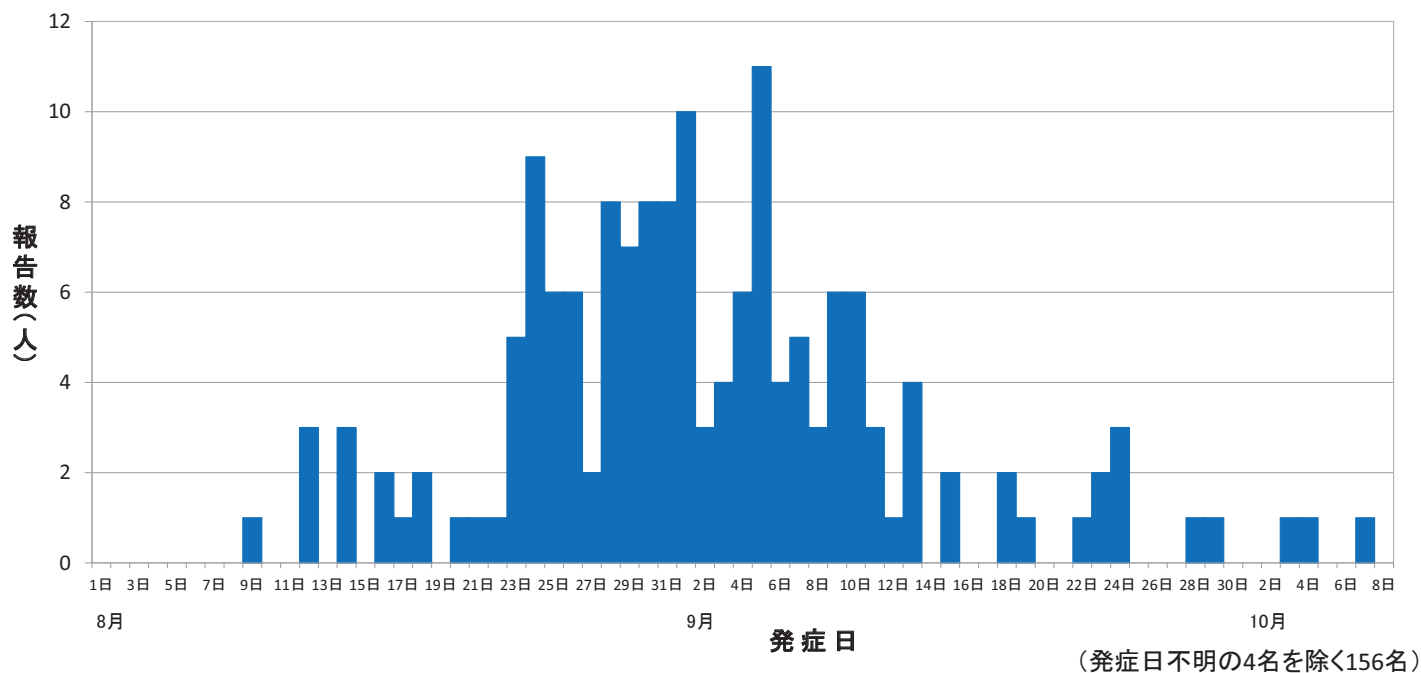
- WHOなどの国際機関や諸外国の政府機関との連携の強化及び情報交換の推進。
- 海外流行国における対策への協力。

第8 対策の推進体制と普及啓発の充実

都道府県等: 蚊媒介感染症対策会議の設置、同会議における定期的な対策の検討・見直し及び訓練の実施。

国、都道府県等、市町村: 住民への蚊媒介感染症に関する知識の普及。

デング熱の国内感染症例の発生状況 (平成26年8月27日～10月31日厚生労働省公表:発症日別)



デング熱の国内感染症例の性・年齢別状況 (平成26年8月27日～10月31日厚生労働省公表)

年齢階級	男性	女性	計
10歳未満	4	1	5
10代	15	17	32
20代	27	26	53
30代	12	7	19
40代	12	12	24
50代	11	3	14
60代	8	0	8
70代	4	1	5
計	93	67	160

岩手県感染症対策委員会

蚊媒介感染症対策について

～岩手県におけるヒトスジシマカ生息調査結果～

岩手県環境保健研究センター

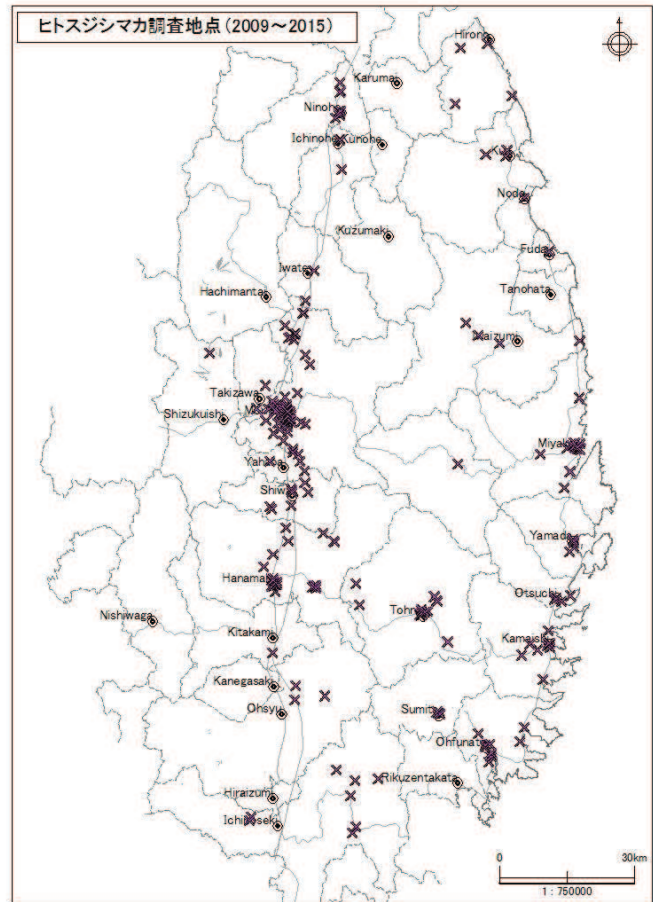
岩手県における蚊類の生息分布調査

- 岩手県環境保健研究センターでは、地球温暖化の指標生物として、ヒトスジシマカに注目。2008年当時、岩手県花巻市が生息北限であった。
- 国立感染症研究所昆虫医科学部との共同研究として、2009年から県内の蚊類の生息分布調査を継続して実施。
- 生息分布調査は「幼虫調査」を主体に、生息密度を把握するための「8分間人囮法」も行った。
- 2009～2010年の調査で、ヒトスジシマカの生息北限が盛岡市まで拡大したことを確認。その後、盛岡市市街地で生息域を拡大している。
- ヒトスジシマカの生息分布調査結果と併せて、1kmメッシュ気温データ等を用いて、統計モデリング手法により、岩手県におけるヒトスジシマカの生息ポテンシャルマップを作成した。
- 2015年には、岩手県立大学総合政策学部との共同研究で、ヒトスジシマカの生息北限である盛岡市市街地の詳細な調査を実施した。

ヒトスジシマカの分布

蚊類の生息分布調査 (2009-2015)

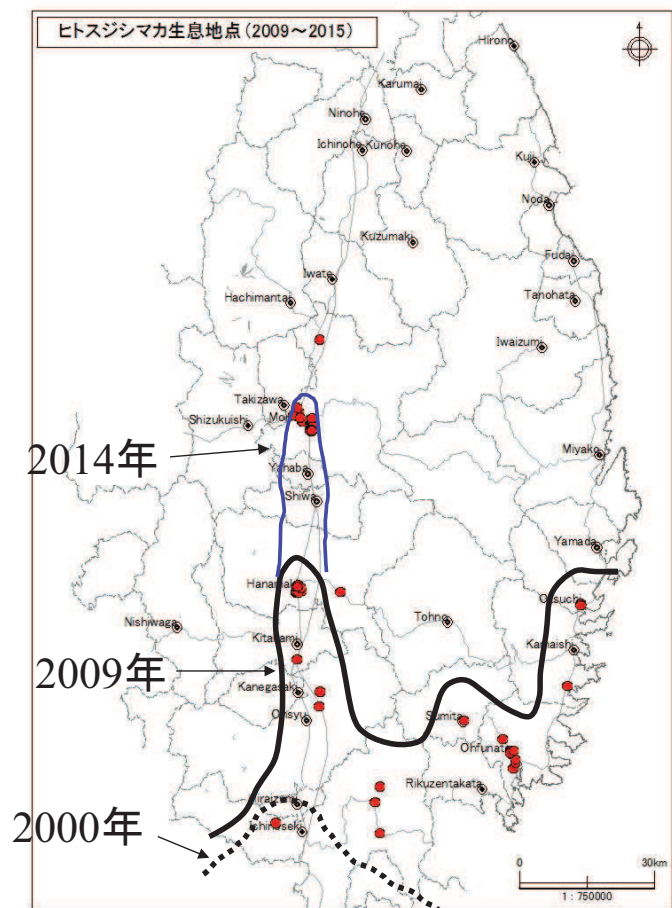
県内延べ600地点を調査
(主に放置タイヤや墓地の花
生けなどの幼虫調査)



ヒトスジシマカの分布

- ・岩手県におけるヒトスジシマカの生息北限は北上し生息域を拡大している。
- ・過去15年で、北限は約100km北上した。

地球温暖化を一因とする
気温等の上昇が主な原因
と考えられる。



ヒトスジシマカの生息条件の解析

2009～2014における蚊調査結果(ヒトスジシマカの検出率)と1kmメッシュ気温データ※から算出した気温等の条件から統計モデリング手法を用いて、岩手県内におけるヒトスジシマカの生息ポテンシャルを検討した。

応答変数:

○ヒトスジシマカの生息確率(1kmメッシュ毎)

説明変数:

○1月平均気温

○10.8℃を閾値とする有効積算温度

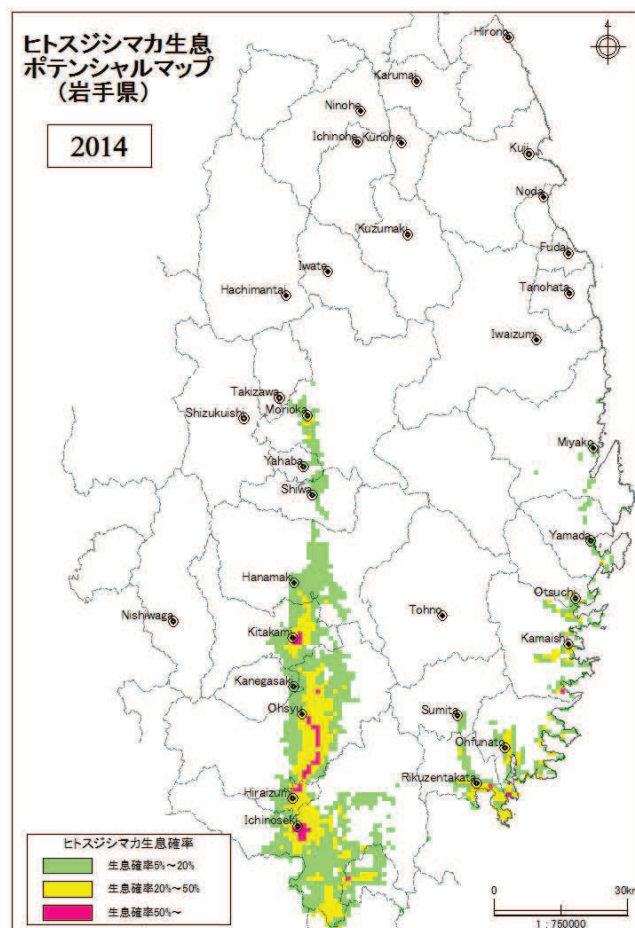
○人口密度

※農研機構東北農業研究センター, 2009. 東北地方1 kmメッシュ気温データ表示・検索システム. 独立行政法人農研機構東北農業研究センター.

菅野洋光. 1997. ヤマセ吹走時におけるメッシュ日平均気温の推定. 農業気象, 53: 11-19.

ヒトスジシマカ生息ポテンシャルマップ

統計モデルから岩手県の1kmメッシュ毎のヒトスジシマカの生息確率を算出し、ヒトスジシマカ生息ポテンシャルマップを作成した。



まとめ

- ・デング熱やチクングニア熱の媒介蚊であるヒトスジシマカは、岩手県盛岡市が生息北限と考えられ、主に、沿岸南部及び北上川沿いに分布している。
- ・ヒトスジシマカの生息確率の高い地域は、岩手県では1990年頃から出現しており、ほぼ10年周期で増減しながらも増加傾向にある。今後も、地球温暖化等の影響により、生息域を拡大していくことが予想される。
- ・ヒトスジシマカの発生を防除するには、個人や地域において、幼虫の発生源である身近な水たまりをなくすことが必要であり、県民に対する普及啓発活動が望まれる。